

第2回北九州市新成長戦略推進懇話会 議事要旨

【重淵座長挨拶】

- ・今回、内容のある具体的な戦略がまとまったが、これはP D C AのPの部分であり、いかにD, C, Aをしっかりと行っていくかが重要である。

【宮田支店長卓話要旨】

<テーマ：北九州経済を取り巻く環境について>

- ・北九州経済は緩やかに回復しつつあり、全国平均との差も解消してきている。
- ・現状では、大企業中心の回復ではあるが、夏場頃からその恩恵が中堅・中小企業でもみられ始めている。

【意見交換要旨】

○5つの重点マネジメント項目

<環境で未来を支えるものづくり都市について>

(石田構成員)

- ・ロボットを例にとると、これからはロボットというモノを売るのではなく、「ロボットを使った自動車の生産システムを売る」といったように、利用者のノウハウに基づくシステム・仕組みを海外に売っていくことが重要。「ものづくり」集積の価値を高めるには「もの活用」のノウハウ・企業も集積すべき。

(松永構成員)

- ・中小企業のグループをパッケージ化して売り込んでいく仕組みが重要であり、その仕組みづくりが行政の役割である。何を日本に残して、何を海外に出していくのが大事。

(自見構成員)

- ・エネルギーや物流などの中長期的戦略はさらに重要であり、行政が専念しなければならない、役割が大きい分野である。
- ・北九州にある工場をどこに留めるかの視点。総合な観点から目配りしないと当地を選んでもらえない。
- ・技能伝承と人材育成。長い現場経験で身につく技能、現場で働いている人が報われることが大事。

(竹澤構成員)

- ・待遇の悪い介護職場での雇用のミスマッチが起きている。
- ・雇用の創出だけでなく、所得水準の高い産業をどうやって作り出していくかを考える必要がある。

<時代を先取りしたサービス産業の振興/都心部における集客交流の強化について>

(濱村構成員)

- “おもてなし” といった日本独自のサービスの世界展開が必要。これは経済産業省の戦略でもある。
- 求人を出しているが、人が来ないという企業が多い。この雇用のミスマッチが課題であり、解決が必要。
- どの世代も安心して働ける働く側のインフラ整備（保育園、学童保育など）

(林田構成員)

- 新球技場について、箱を作ることを目的にせず、全体のブランディングを行い、市民が同じ夢を見ることが大切である。
- 若者の集客拠点を目指すところがあるが、逆に高齢者の方が本市にお金を落とす仕組みが必要ではないか

(北橋市長)

- 新球技場の問題は6年間議論を重ねてきた。市議会でも8割の議員に賛成頂いた。市民には過去のハコモノのトラウマがあるのかもしれない。今後も必要性を丁寧に説明していく。
- 若者の財布は確かに少ないが、感性がシャープであり、若者が集まると、人が集まってくる魅力が出てくるものである。

(松永構成員)

- 高齢者の方が病気にならない産業（健康産業など）を作ることが大事である。
- 高齢化をビジネス化してモデル化する。

(宮田支店長)

- 高齢者が多いというのは、ビジネスチャンスにもなる。
- 高齢者のニーズがあるサービス産業を作っていく視点が重要である。（巣鴨を例示）

(自見構成員)

- 関東・関西に比べて、九州は交通運賃が割高であり、競争力がない。本市と福岡市の移動コストを下げるような仕組みができないか。
- サービス産業は低賃金である。

<産業を支える基盤づくりについて（更なる物流拠点化/地域エネルギー拠点化）>

(林田構成員)

- 11月から、中国・上海にお酒を輸出することができるようになったが、商社の関係からか、日本からの輸出港は東京か横浜を指定される。
- 地元に港があるのに使えないという問題がある。

(松永構成員)

- 24時間利用可能な北九州空港を十分に活用できていない。あまり知られていないのではないか。
- エネルギーの取組みについては、そう簡単に動くものではないが、大きな可能性がある。九州はエネルギーの基地となるだろう。

<まとめ>

(重淵座長)

- 新成長戦略が出来上がったが、これを絵に描いたもちにするか、実行できるかは行政と企業とのコラボレーションにかかっている。成功できる物語が描けるよう、今後の頑張りに期待したい。構成員も応援していく。

(北橋市長)

- 高齢者ビジネスや巣鴨の例は参考になった。
- 雇用のミスマッチの解消について、福祉関連の給与面の向上は、国の保険制度の関係で難しい面があるが、国にも提案していきたい。